「質問に対する回答」

平成２６年５月１２日

北見工業大学
国際交流センター鈴木ゼミのみなさま

この度は、NHK 北見放送局に見学にお越しいただきありがとうございます。短い時間での見学でしたが、放送局の仕事について少しでもご理解いただければ幸いです。
では、事前にお預かりしたご質問に回答させていただきます。

Q. 記事を原稿にまとめる際の難しい点は何ですか？

A. 正確な記事を書くということです。
そのため、取材をする時は、きちんと人の話を聞き、疑問を残さないようにしています。記事を書く際も、メモ帳や資料と照らし合わせて、間違いがないことを何度も確認を繰り返しています。

Q. ＮＨＫ全体で、何人くらいの外国籍の職員がいますか？

A. 外国籍の職員はＮＨＫ全体で２２人です。

Q. 事件発生を知る方法は何ですか？

A. 全国のＮＨＫにいるおよそ１０００人の記者、世界２９か所に派遣されている特派員などが、警察や記者クラブなどあちこちに行って取材したり、「記者会見」から情報を得たりもします。その他、電話や手紙・メールなどで情報を皆さんからいただいたりすることもあります。

Q. 発生からニュース取材を行うか否かを決める方法は何ですか？

A. ニュース番組の制作・送出には、かならず編集責任者という人がいます。この編集責任者が、その時点でNHKに入っている、たくさんのニュースの中から、ニュースを見ている人たちに伝えるべきだと思うニュースを選び、放送する順番を決めています。責任者は決められた短い時間の中で判断し、決定していかなければならないので、豊富な知識と強い判断力が要求されます。

Q. 記者として採用されるには、どんな能力が必要ですか？

A. 特別な能力は必要ありませんが、記者の仕事の中心は取材です。しっかりと人の話を聞き、ときには利害が一致しない相手に対しても取材しなければなりません。ですので、さまざまな人と会って話をすることを楽しめる気持ちが必要だと思います。

Q. NHK北見放送局として、これまで一番大変だった出来事は何ですか？

A. １番ということは決められませんが、２００７年に北見市で起きた断水事故の対応は、さまざまな職種の人間が多くかかわる大変な事故でした。長時間の断水でシャワーも使えない中での取材や自治体からの給水情報を放送するなど、難しい状況の中で少しでも助けになるような情報を発信しました。

Q. ニュースになるまでの過程について教えてください。

A. DVDで見ていただいた通りです。おみやげに入っているジュニアブックにもニュースができるまでの過程が掲載されていますので、参考にしてください。

Q. ある問題に対して、質問する対象をどのように決め、その意見を中立に報道するための方法・手段は何ですか。

A. ある問題に対して、質問に応じてもらう人は、過去にテレビや新聞などで発言した内容や取材を通じて知り得た人柄などを参考に、中立的な意見を話してもらえると判断した上で選んでいます。また、意見が分かれるニュースについては、必ず双方の意見を紹介するようにしています。

最後に、NHK北見放送局では、より地域に密着した情報をオホーツク管内はもとより道内や全国の皆さんへいち早くお届け出来るよう努力しております。
今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

北見放送局の番組は、
月曜から金曜　午前１１時５０分～５４分「つながる@オホーツク」　です。

ぜひ、ご覧ください。　本日はありがとうございました。

NHK北見放送局　社会見学担当／宮下
TEL（０１５７）２３－４１８１
FAX（０１５７）２６－６６０６